

基本理念と基本方針

【基本理念】心身の健康の増進と豊かな人間形成、明るい家庭と元気な地域づくりの実現
 【基本方針】①全ての県民がさらに食育活動を進める ②全ての関係者で食に関する環境の整備を図る
 ③ひょうごらしさを活かした食育をすすめる（ひょうご五つの国の特徴、震災の経験と教訓）

現状

- 1 家族形態の多様化と食生活の変化
 【世帯数（千世帯）】総数：⑦1,868→⑦2,312
 単独：⑦418→⑦756、夫婦と子ども：⑦705→⑦668
 朝食喫食者：⑳20～30歳代61.7%（他世代87.4%）
- 2 高齢者の5人に1人は低栄養傾向（BMI≤20kg/m²）
- 3 地産地消の進展、食と「農」に親しむ機会の増加
- 4 全国的にも生産量上位で高評価の農林水産物あり

重点課題

- 1 若い世代の食育力の強化
 ・食に関する知識と実践力の向上（毎日朝食を食べる等）
 ・次世代（親から子）へ伝え繋げる食育
- 2 健やかな暮らし方を支援するための食育推進
 ・健康寿命の延伸につながる減塩等の推進
 ・肥満や生活習慣病、フレイルの予防・改善
- 3 食や「農」への理解を促進するための食育推進
 ・地産地消の意識の浸透
- 4 食育活動の充実に向けた連携推進体制の充実

令和元年度末時点の取組

- 1 全体の評価・検証
 推進計画期間の3年を経過し、全体として概ね目標値の達成に向けて順調に取組中
- 2 新たに目標値を達成した指標
 ・公立小中特別支援学校教職員の食に関する研修の受講率（⑳24.8%→①79.6%）
 ・直売所等利用者数（⑳2,780万人→①2,846万人）

網掛けは新たに目標値を達成した指標

柱	指標	計画策定時の実績	R元実績	R3目標値	評価	
(柱1) 若い健全な代食を生活中心と実践した	朝食を食べる人の割合の増加	(20歳代男性)	51.4%	45.6%※1	57%以上	▲
		(20歳代女性)	69.2%	69.1%※1	76%以上	
		(30歳代男性)	66.8%	53.6%※1	73%以上	
		(30歳代女性)	82.0%	74.1%※1	90%以上	
	公立小中特別支援学校教職員の食に関する研修の受講率の増加	26.5%	79.6%	50%以上	◎	
	食育を7教科の中で実施した中学校の割合の増加（技術家庭科、保健体育を除く）	-	63.0%	100%	-	
	家庭・地域と連携した取組みを行った学校（のべ数）の増加	3,718校	4,137校	4,500校	○	
(柱2) のるら健推食しや進育をか活支な動え暮	食事づくり(買物・調理・後片づけ)に参加する人の割合の増加（20歳以上 男性）	70.6%	68.3%	75%以上	▲	
	毎日、家族や友人と楽しく食事をする人の割合の増加（20歳以上）	57.3%	82.0%※1	68%以上	◎	
	食の健康協力店の店舗数の増加（登録店舗数）	7,947店	8,470店	9,000店	○	
	災害に備え、非常用食料などを備蓄している世帯の割合の増加（世帯）	61.7%	70.0%※1	75%以上	○	
(柱3) 推的食進にや関一わ農る活に動積の極	地元や県内でとれた農林水産物を買っている人の割合の増加	71.7%	68.5%	81.0%	▲	
	直売所等利用者数の増加	2,384万人	2,846万人	2,830万人	◎	
	兵庫県認証食品流通割合（生鮮）の増加	27.7%	39.5%	41.0%	○	
	楽農生活交流人口数の増加	1,153万人/年	1,131万人/年※2	1,160万人/年	▲	
	地域の行事食、郷土料理を知っている人、作ることができる人の割合の増加(20歳以上)	(知っている人)	41.4%	59.4%	50%以上	◎
	(作ることができる人)	18.4%	39.9%	25%以上	◎	
(柱4) 制め進食整のの育備体た推	食育に関心のある人の割合の増加（20歳以上）	86.8%	82.7%	90%以上	▲	
	食育の意義を理解し、食育活動を実践している人の割合の増加（20歳以上）	47.4%	63.4%	60%以上	◎	
	地域と連携した食育活動に取り組む組織・団体の増加	360団体	551団体	610団体	○	

※1 H28実績
 ※2 H30実績

令和2年度の主な取組

柱1：若い世代を中心とした健全な食生活の実践

- 1 およこ de キッキングの開催【県いずみ会・男女家庭課】
 親子を対象に、食の大切さへの理解を深める料理教室を開催

R元末実績	R2計画
38会場1,089名	38会場
- 2 拡 学校教育活動全体での食育を実践【体育保健課】
 「学校における食育実践プログラム（改訂版）」等の活用と、新たに作成した「教職員用食育ハンドブック（中学校版）」の活用を促し、中学校での更なる食育を推進
- 3 大学生向け朝食摂取率向上プロジェクトの開催【県栄養士会・健康増進課】
 大学生への歯科検診等、様々な機会を捉えて朝食摂取に向けた普及啓発

R元末実績	R2計画
5会場448名	5会場
- 4 拡 「子ども食堂」応援プロジェクトの実施【地域福祉課】（R2年計画：15団体補助）
 「子ども食堂」の開設に必要な経費補助の要件緩和（月2回以上から月1回でも申請可能）



食で育む 元気なひょうご “プラス1の食育実践”

柱2：健やかな暮らしを支える食育活動の推進

- 1 美味しく、ヘルシー社食ごはん改革の実施【健康増進課】
 健康づくりチャレンジ企業等と連携し、社員食堂の食生活改善や健康・栄養情報の発信
- 2 新 フレイル対策強化推進「食べて、元気にフレイル予防」の実施【県歯科医師会・県栄養士会・健康増進課】
 高齢者を対象に、栄養バランスと噛み応えを意識したフレイルプログラムの実践・フレイルチェックの普及など全県的なフレイル対策を展開するとともに、モデル市町においてフレイルプログラムの評価指標の検討と試行・オールフレイル健診体制を整備
- 3 健やか食育プロジェクト事業の実施【健康増進課】
 各健康福祉事務所において、重点テーマを定め、保健・農林・教育・商工等、地域の食育関係者と幅広く連携し、食育実践活動を展開（減塩の普及啓発、壮年期のメタボ予防、高齢期の低栄養予防等）
- 4 「食の健康協力店」の登録と普及啓発【健康増進課】（R2年計画：8,800店）



柱3：食や「農」に積極的に関わる活動の推進

- 1 学校給食における食育推進と県産農林水産物の利用向上の促進【楽農生活室】
- 2 農業体験による楽農生活の推進【兵庫楽農生活センター】
 親子を対象に、お米や黒大豆づくりの体験教室を開催

R元末実績	R2計画
米100家族 黒豆44家族 魚食425回,15,020人	米100家族 黒豆40家族 魚食300回
- 3 魚食普及の推進【県漁連・県漁協女性部連合会等】
 魚を自分で調理できる食材として親しめるよう、料理講習会の開催や大規模小売店での対面販売促進等の活動を展開
- 4 ふるさと料理講習会の開催【県いずみ会・健康増進課】
 子育て世代を対象に、主食・主菜・副菜の揃った日本型食生活や郷土料理を伝える料理教室を開催

R元末実績	R2計画
20会場482名	20会場



(親子農業体験)

柱4：食育推進のための体制整備

- 1 「ごはん」「大豆」「減塩」を柱とした「ひょうご“食の健康”運動」の展開【健康増進課】
 食の健康運動リーダー1,000人が3,300回の調理実習を開催
- 2 ひょうご「食育月間（10月）」の普及啓発【健康増進課】
 食育絵手紙コンクールでは、重点課題である朝食摂取率の向上を目指し、「朝食の大切さを伝えるメッセージ」を募集
- 3 次期（第4次）食育推進計画の策定に向けた調査の実施【健康増進課】



(R元：食育絵手紙コンクール「災害の備え」)

評価 ◎：目標値を達成
 ○：直近値が計画策定時の現状値と比較して向上
 ▲：直近値が計画策定時の現状値と比較して進捗がみられない